



大貴 首座問答中

龍谷院たより

発行所 龍谷院
茨城県東茨城郡
城里町下阿野沢1509
TEL 029-289-3108
FAX 029-289-3025
編集人 蘭部 義光

法戦修行

梅雨も明け、暑さが一層感
じるようになりました。今年
もアジサイの花が見事に咲き
ました。これも、お世話人方
の環境整備のご協力のお蔭だ
と感謝いたしておるところです。
震災から一年半、被害が無
いと思っていきましたが、調べ
たところ客殿の屋根の棟瓦が
ズレ、雨漏りすることが判明
しました。早速修理の手配を
したところ、工事開始は十月
頃となりました。

この半年を振り返りますと、

大変多忙な半年でした。最も
大きな行事は龍谷院徒弟蘭部
大貴（駒沢大学二年）が、去
る三月二十四日、二十五日の
両日、兵庫県宝塚市の喜音寺
において法戦式を修行した事

です。

この修行は住職になる為
に必ずやらなければならない
修行であります。

今から三年前に龍谷院で晋
山結制をしましたように喜音
寺の新命住職越賀得之師が晋
山結制を行いました。その時

住職 蘭部 義光



宝塚市 喜音寺全景



首座 法戦式

の首座和尚の配役が大貴です。堂々たる進退で見事な出来栄ででした。これから益々の精進を期待したいところです。

八月は旧盆の時、其々の皆様のお宅でご先祖様をお迎えし三日間の時を過ごされることと思います。

盆入りの七月、あるいは八月の十三日の夕方、家の前



火を焚き、ご先祖さまの“み霊”をお迎えする習俗が迎え火です。

梅花流の孟蘭盆会御詠歌に

“子等の焚く”

迎え火の炎のさゆらぐは

みたまの母の

来たまえるらし“

とあります。

八月十三日の黄昏時、子どもたちが迎え火を焚いています。

その迎え火の炎が、そよそよと吹く風にかすかに揺らぎます。

その様子を見ている人たちが「ああ、今年もご先祖さまが帰ってきたんだなあ」と心の中でつぶやいている、そんな姿が

想像できます。

「みたまの母」今は亡き母親を思い、迎え火を焚く情景です。母親ばかりでなく亡き人、ご先祖さまが帰って来たとに違いない。という思いです。

お盆は亡き人をしのぶとともに、さまざまな出会いの中でそのご縁に感謝し、人間としていかに生きるべきかを考える機会です。

龍谷院の行事

一、修正会（一月一日）

元旦より三日間ご祈禱を行います。大般若の転読をし、お檀家の平穩を祈願する法要であります。

二、節分会（二月三日）

龍谷院の恒例の節分会です。

三、涅槃会（二月十五日）

お釈迦様がお隠れになった日、

ご命日です。いつもこの日は涅槃像の掛け軸を掛けて涅槃経を読みます。

四、世話人会（四月七日）

平成二十四年度龍谷院総代世話人会が開催された。平成二十三年度事業報告ならびに二十四年度事業計画がなされ、昨年に引き続き環境整備奉仕活動を実施することとなった。

五、花祭り（四月八日）

お釈迦様のお誕生日で花堂を設けて甘茶を掛け祝います。





初の試みとなった自席での奉詠



新沼謙治さんによる清興

六、梅花流全国大会（五月三十日）
千葉市美浜区幕張メッセにて開催されました。



東日本大震災物故者及び梅花講員物故者追悼法要

七、龍谷院檀信徒ゴルフ大会（五月二十五日）

桂ヶ丘カントリークラブにおいて開催されました。今年で第六回目となる大会、大勢の参加者で盛会に終わりました。

優勝 佐藤元一様

二位 野口謙治様

三位 広木和久様

ゴルフ大会寄付者名

金一封 江幡照夫様、石崎

貞夫様、関 信彦様、白馬寺様、

泉福寺様、来見寺様

賞品 広木和久様、坂原

昭人様、橋本 茂様、森田
昭様、加藤木勝三様、石鉄石
材様
協賛金 オケキ仏具店様、
平塚設備店様



第6回ゴルフ大会参加者

次の方々から感想文をいただきました。

「ゴルフ大会に参加して」

江幡 照夫

本年一月一日付発刊されました龍谷院たよりで五月二十五日、桂ヶ丘カントリークラブに於て、龍谷院チャリティゴルフ大会が開催されます

事を知りました。高齢の身故不安もありましたが参加することとしました。当日受付事務は御婦人様の心あたったかい受付をいただきました。プレー開始前に参加者全員が集まり、大会委員長様の挨拶並びに楽しく、又事故がないようお話しを戴きました。続いて大会役員の方からは、競技のルール等の説明をいただきました。当日はいつにない好天に恵まれプレーに興味が湧きました。同伴者方は檀家の皆様でしたが、初めてのことが故何か不安でしたが、おだやかな人ばかりでしたので、有難かったです。組合せにつきましては、役員さんの取り計らいにより楽しい一日でした。皆様に感謝申し上げます。私は還暦になる頃始めた自己流ゴルフですから、上達は望めません。大会の結果は皆様の御技量の高さに驚くばかりです。私も、今後ゴルフを続けることが出来るときは、一打ご

とのショットを大切にしながら、迷球ではないボールを打ちたいと願っております。

どうか今後も更にこの大会が益々発展されますことと、皆様の御健康を御祈念申し上げます。本日は拙筆を誠に有難うございました。

「絆を感じるひととき」

関 信彦

新緑につつまれた絶好のゴルフ日和。毎日の仕事に追われる多忙な日々、久し振りのプレーで命の洗濯もでき、少しばかりの疲労も心地良く、清々しささえ感じる一日でした。

人それぞれ、いろんな思いを込めてプレーをしている様子、楽しい限りでありました。ゴルフ大会も回を重ねる度に参加者も増え、久し振りに逢う人も多く、会話も弾み、あつという間の十八ホール。

表彰式は客殿の間、参加者全員で「般若心経」を唱える。(最初はとまどいもありました

が、今では大分慣れてきました。) 瑞雲山龍谷院の檀家としての強い絆を感じるひとときでもあります。持ちきれない位沢山の賞品、家に帰れば優勝なんですかと聞かれる程の品々、胸を張って帰れる一日でもあります。

毎回、お手伝いを戴いております。ご婦人の方の皆様に感謝申し上げますと共に、この大会が檀家同士のふれ合いの場として、益々ご発展いたしますことをご祈念申し上げます。筆をおきます。

「ワンランクアップ」

高土 洋一

ゴルフを始めて四年目、住職様には、色々なお寺のコンペに出して頂き有り難うございます。今回も五月の新緑、緑の芝、気分は最高なのですが、スコアはいまいち、檀家のメンバーと和気あいあいの楽しい一日でした。

前回よりも今回、常にワン

ランクアップを目指し、チャレンジしていますが、ゴルフはリアルで難しいスポーツです。次回もまたワンランクアップを目指し頑張りたいです。

「ゴルフは仏様に祈ろうと決意」

高堀 富美男

五月二十五日金曜日、天気まあまあの一日が始まりだ。

今日の予定は龍谷院の定例ゴルフコンペである。まずはご先祖様にお祈りして今日一日の好スコアを願う。このように朝一番で神と仏あらゆるものにお祈りしゴルフ参加だ。

最初の一打はちよつと力んでコース左へ。二打は方向がまずく池の中。打ち直したらバンカーに入り、一番ホールは四オーバーだ。まずこのような状況ですべてがダメ。朝一番で神と仏にお祈りしたことも冷や汗とともにすべて流れてさんざんである。小生、反省するにゴルフに対する取組の甘さか、それとも精神面

の弱さが出たのか。

朝、家を出るとき、賞品モチキレルかなとひそかな望みがぶち壊れた。次回はもっといいスコアが出るよう仏様へのお祈りを毎日忘れないよう、がんばろう。

「あれから五年」

小林 繁正

あれから五年。そうあれから五年とは、定年退職後五年目ということです。

退職後は、これから何をしたらよいかわからなく、何となく過ごす日々でした。

ある日、知り合いから、龍谷院のゴルフコンペに参加してみないかと誘いがあり、私も会社員のころ、少しばかりプレーしたことがあり、参加させて頂きました。参加してみると、いろいろな方々がいて、皆それなりに楽しんでいるようでした。私も初めは、やや不安だったが、プレーをしていくうちにすごく楽しくなり、



環境整備作業に協力された皆さん

歩き回り体を動かす、ゴルフを楽しむことは、健康によいと思います。これから、より長く続けていってほしいです。

八、第一回環境整備作業（五月二十七日）

大勢のお世話人様に草刈をして頂きました。

（七月十六日）

第二回環境整備草刈とアジサイの施肥が行われました。

「環境整備に参加して」

加藤木 美一

昨年から、五月と七月に各地区の世話人が参加して、境内の草刈り及びアジサイの整枝作業を行っております。今年は、五月二十七日と七月十六日に行われ、多数の方が参加されました。広い境内には急傾斜もあり、深い草が生い茂っている場所もあり、又当日の猛暑も加わって、大変な作業でしたが、作業中に、ご婦人の冷水サービス等で休憩を取りながらの作業でした。大変暑い日でしたが、体調不良を訴える方も出ず、無事終了したことは、全員が一体となって、来るべきお盆に我が家の菩提寺を、少しでもきれいにという思いから参加されたと思います。作業終了後に、達成感を味わいながら、参加者全員で冷たいお茶をいただき、自由解散になりました。今回の環境整備は終了しました。皆様、ご苦勞様でした。

「龍谷院内の環境整備」

皆川 正一

五月末に龍谷院の草刈り作業に参加しました。作業前に住職や役員の方から挨拶や注意事項などを聞いた後、多くの参加者が思い思いに散り、一斉に雑草を刈り出しました。いつもは静かな龍谷院内はエンジン音が轟きました。今回の作業範囲には多くのアジサイやツツジなどが植樹されており、雑草と一緒に刈らないうような注意を払いながら作業しました。やっと調子が出た頃には作業完了。参加者全員で休息をとりました。

先日、所用で龍谷院を訪れた時、丁度色とりどりのアジサイが見事に咲いておりました。いままでこの時期に訪れることはなかったため気づきませんでした。このアジサイの株が年々大きく育っていけば、更に美しい環境が整備されるものと感じました。また季節によって違った風情を提供出来る龍谷院内の環境整備には、

役員の方をはじめ各地区の世話人等各位が協力し、焦らず地道に整備していくことが必要かと思いました。

ご本尊について

住職 園部 義光



各家庭には仏壇があるかと思ひます。その中心にお祀りするのがご本尊です。時々仏壇の中心にご本尊が無い仏壇を見受けまます。ご本尊は宗派によって違いがあります。確かにご先祖のお位牌も大切ですが、ご本尊をお祀り下さい。曹洞宗はお釈迦様がご本尊となります。

仏壇の右奥には永平寺ご開山道元禅師の像と、左奥には總持寺ご開山瑩山禅師の像を祀ります。

ご先祖の位牌で新しい（仏様）位牌は左手前、古い位牌は右手前に祀ります。

龍谷院の沿革⑤

寺宝

たいていのお寺には、寺宝といわれるものがありますが、龍谷院には次のものが寺宝として伝えられています。

一 金欄九条七条袈裟 二 領

開山禪師が着用した袈裟といわれています。

二 龍骨

開山のとき、井戸を掘ったところ、龍骨が出たといわれています。

この骨は、実際には、白蛇の化石で、長さ三〇センチ、中四センチほどの大きさだそうです。

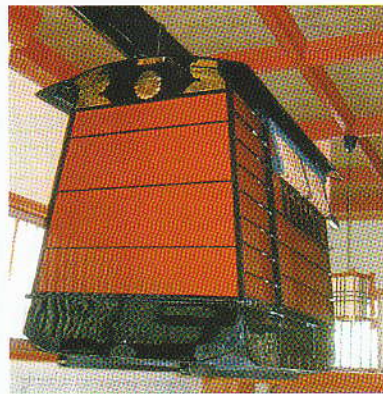
三 観音竹

開山禪師が、観音堂を建てる場所を選定したところ、そこに瑞祥として、若竹が一夜のうちにすくすくと伸びたそうで、「観音一夜の霊竹」として大切に保存されています。(龍谷院たより「第22号参照」)

ほかに、由緒あるものとして、緋網代籠があります。

これは、開山禪師が大本山より当寺に赴いたときに使用したといわれる駕籠です。朝廷より下賜されたもので、菊の紋章がついています。

年代を経て、傷みが激しかったため、数年前に修復され、今は本堂内に大切に保管されています。いかにも高僧の乗物らしい気品にみちた駕籠です。ぜひ一度拝観されてみてはいかがでしょうか。



修復された緋網代籠

寺宝は普通は目にする事ができないものが多いですが、秘宝として、あるいは伝承として信心することにより、崇敬の念や心のやすらぎを感じるものと思います。

(杉山記・完)

開山忌
並びに先祖供養会

平成24年11月1日(木)

午前10時 開山忌
午前10時半 法話
午前11時半 先祖供養
終了 昼食

『編集後記』

当院、方丈様のご子息、大貴様の法戦式の修行が実施されました。将来立派な和尚になられることが期待されます。

昨年に続き、大勢の方が参加しての院内の整備作業が行なわれましたこと、ご苦勞様でした。二名の方より作業の様子のご寄稿をいただき、ありがとうございます。

ゴルフ大会は、参加された方より、プレーの様子の寄稿で、楽しく、しかも親睦を深め有意義に出来たことを、うかがい知ることが出来ました。

編集委員

杉山三千雄
稲川 清

祠堂牌受付中

従来の祠堂牌は七万円
(三十年前が五万円)

永代供養牌 十五万円
(但し、お骨の預かりは別となります)



申し込みいただいた祠堂牌は位牌堂に祠ります。

申込先 龍谷院 〇二九一二八九一三一〇八